



希望の未来へ！あなたと市政のかけ橋に すずらんジャーナル

船橋市議会議員

はしもと 和子

2024年 第76号

市民相談はお気軽に

090-5574-9079

発行 橋本 和子

こどもの人権相談SOSチャット

児童・生徒のタブレットに「悩み事相談」の一覧が掲載されています。そこをタップすると、電話番号やURLが載っていて、メールは送信するだけで、返信は、個人の端末でのやり取りとなりました。

子ども達は、必ずしも携帯やPCを持っているわけではありません。

そのことを担当課に伝えたところ、夏休み明けから「こどもの人権相談SOSチャット」で、タブレットから、チャット形式で相談ができるようになりました。



©KOMEITO

インクルーシブ遊具が設置されました。

障害のある子もない子も共に遊べる遊具です。



松が丘公園

車いすから移動しやすいアクセスデッキ、視覚・聴覚・触覚など多感覚で楽しめるパネル遊具、滑るところは、熱くならない素材で、複数人で滑ることが可能な幅広い滑り台など、安心して遊べる遊具です。今後、公園の遊具の更新時に、設置可能な公園に設置されます。



鈴身町つつじ公園

医療センターにおける「治療と仕事の両立支援」

今やがんは早期発見・早期治療で治る病気です。がんになっても働き続けたいと思う方も多いと思います。しかし、多くの方が、依願退職や解雇されるケースもあり、治療と就労の両立に問題を抱えています。

そのような中、社会保険労務士等、就労支援のできる人を配置し、就労に関する相談や社会保障について説明・相談を行うことが求められています。

医療センターでは、がんになった患者さんの就労支援や傷病手当金などの相談窓口や患者さん寄り添った支援が必要と考えますが、どのような支援を行っているのか。



医療センターでは、がん相談支援センターを開設し、がんの診断から治療、その後の療養生活、就労支援、その他抱えている不安・問題などを伺い、問題解決できるようにサポートしている。

加えて、治療と仕事の両立支援として、千葉県産業保健総合支援センターと協定を結び、必要に応じて、社会保険労務士等の両立支援促進員の派遣による出張相談窓口や、個別調整支援といった体制を整えている。ハローワークによる隔週での出張相談も行っている。



©NEW KOMETTO

市立青梅総合医療センターを視察しましたが、ここでは、社会保険労務士による相談で、主なものは、障害年金の受給可否・申請方法等のほか、傷病手当金の受給や年金との調整など、専門家だからこそそのアドバイスを行っていました。医療センターでは、メディカルソーシャルワーカーや看護師などによる、社会保障制度の説明や、必要な行政機関につなぐといった対応はしているとのことでしたが、具体的な手続き方法や申請に必要な書類の書き方といった専門的なアドバイスまでは、行えていないものと思います。



現在の状況は、治療を継続しながら仕事を続けたいと希望する患者さんに対し、必要に応じて、出張相談や個別調整支援が行われていますが定期的に医療センター内に、相談できる場所があれば、患者さん本人はもちろんですが、ご家族なども安心するのではないのでしょうか。

100歩ゆずって、新病院ができたときには、「がん」だけではなく、増え続ける「精神や脳疾患」など誰でも安心して相談できる体制づくりを要望いたします。

特別支援教育・教育ソフトの導入

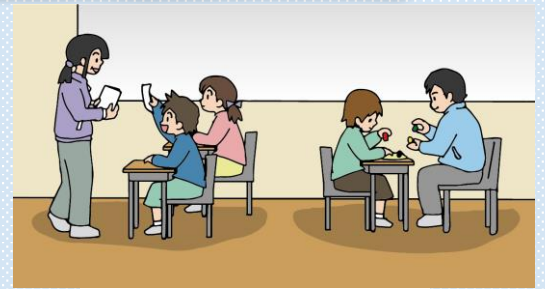
特別支援教育をさらに進展させていくために、「障がいのある子どもと障害のない子どもが可能な限り共に教育を受けられる条件整備」

「全ての教師が発達障害等の特性等を踏まえた学級経営・授業づくりを研鑽、校内人材を活用したOJT(先輩が、後輩に対して、実際の仕事を通じて指導し、知識等を身につけさせること)による支援体制の充実」が求められています。

支援員の配置・学校ボランティアの派遣・医療的ケア児に対し看護師の派遣を行っている。

教員に対し、巡回相談員の派遣・専門家チーム会議の開催・特別支援学校のセンター的機能・指導主事による要請訪問を行い、指導方法や助言を行っている。

特別支援学級の新規開設を進めるとともに、通級指導教室・特別支援学校の指導の充実を図っている。



鎌ヶ谷市に視察に行ってきました。

今までは、子どもに合わせた教材を用意してきた。グレーゾーンの子も達にも、こういう教材を使ったらいいというもの、一括で分かる物が欲しいとの要望があった。これまでの経験で教材を用意してきたものが難しくなり、ソフトウェアの導入の検討を始め、子どものアセスメントをしたうえで、それに合った教材がダウンロードできることから、教育ソフトのトライアル導入した。

トライアル導入した、鎌ヶ谷小学校へ行き、校長先生からも話を伺いました。個別の教育支援計画・指導計画を作成するのに、教員の負担感があった。専門知識・情報が限られている中で、客観的に判断・アセスメントにより判断ができる本ツールと出会った。

このソフトでは、「まなびプラン」として、個別の教育支援計画・指導計画作成をサポート「まなび教材」として、すぐに使える約20,000枚の教材で、教材作成の負担軽減「まなび動画」として、特別支援教育の基礎知識や子どもとの関り方を、動画で学習。とあり、全教員が動画で学ぶ中で、経験の少ない教員も理解できた。とのことでした。

また、本格導入をしている柏市では、ひらがなやカタカナの「まなび教材」をラミネートし、その上からホワイトボードペンを使ってなぞる練習をしている。最初はなかなかできなくて集中することができなかつた子も、自分で全部なぞることができると、嬉しそうに「見て!」と、プリントを見せてくれるようになった。

「まなび動画」を使った校内研修を行い、子どもの行動への対応を考える前に「なぜ、その行動が起きるのか」という視点を持つことができた。机の整理整頓ができないことが原因で、学習に集中できなかつた子に対し、担任の先生が、授業が始まる前に、整理整頓を教え、環境が整うように支援したことで、スムーズに学習にとりかかることができた。などの声が届いています。本市における導入を求めました。

幼保連携型認定こども園の 学校薬剤師の配置

認定こども園法によると、幼保連携型認定こども園では、乳幼児や教職員の健康や安全を守るために「学校薬剤師」の配置が義務付けられています。

学校薬剤師

「学校環境衛生基準」に基づいて、清潔・換気・飲料水・プール・照明・騒音等について、定期検査や臨時検査を行います。



例えば、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症予防では、二酸化炭素や温度・湿度などの空気環境について検査を行います。

また、調理器具や食器の清潔さ、食材管理等を検査し、食の安全を守ります。さらに、トイレやおむつ交換代、おむつ入れ、ドアノブや水道の蛇口の適切な消毒について助言し、嘔吐物の処理や正しい手洗いの方法などを指導します。

この他にも、化学物質による体調不良の予防や、水遊びやプールでの感染予防など、専門家だからこそ、指導・助言ができると思います。

市内にある8施設全てに学校薬剤師が配置されている。



小さな子どもたちの命を守るために、より多くの専門家が関わっていることに、安心しました。



はしもと 和子 090-5574-9079

ホームページ hashimoto-kazuko.jp

市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

S.35年 長野県軽井沢町生まれ 小諸商業高等学校卒業

八十二銀行入行 S.57年より船橋市在住 H.27年より保護司

